

二十日(月)から二十六日(日)

私たちは死ぬと「お墓」に埋葬されます。近年は遺骨を海に散骨したり、お墓という形にこだわらない人もいますが、それはホンの一部の人たちで、大半はお墓に埋葬されます。私達の先祖が眠る浄域、それがお墓です。お爺さんやお婆さんあるいはご両親や兄弟姉妹、親友や我が子を亡くされた方もあるでしょう。お墓に参り花を供え、お線香に火をつけて手を合わせると、その脳裏に、先に逝った人達の懐かしい姿が浮かんでくるはず。何代も前の、今の私達に繋がっている生命が眠っているのです。「今という、いまなるときはなかりけり、まの時くれればいの時は去る。」という言葉があります。本当に思い立った日が吉日です。今は何事にも実行することが求められています。秋のお彼岸にはお塔婆をあげ、お花を供えて墓参致しましょう。



日蓮聖人 遺訓(二二二)

「人久しといえども百年には過ぎず 其の間の事は但一睡の夢ぞかし。」 (松野殿御返事)

「人の生命などは短いものだ。百年生きたとしても、永遠な生命からすれば夢みたいなものだ。永遠に生きていることは信仰に生きていることだ。」と生命の大切さと一日一日を大切に生きていることが必要だ。

八幡大菩薩の座像 淨行菩薩の繪馬に ついて

八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。

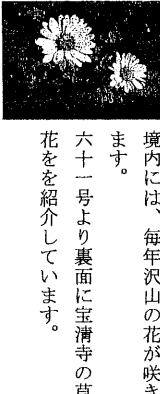
八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。

八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。八幡大菩薩の座像の制作費の一部に下さい。

住職ひとと口法話(第二十三)

加者が増え、立つて法話を聞かれている方があつたくらいでした。家族連れで若い方の参加も目立ち、大変ありがたい傾向です。来年も大勢の方々の参加をお待ちしております。今年のお盆のお施餓鬼法要のあの住職の法話で「世の中の乱れは、家庭の問題が大きく、核家族の問題から家族がバラバラだとの問題が懸念され、近年は家庭の崩壊が様々な世相の問題の原因の一つではないか。」と指摘したお話をさせて頂きました。その後、一〇歳以上の不明者が続出し問題となっている。

また、葬儀社から、身元が分からず火葬後家族が居ることが分り連絡を取ったところ、お骨の引き取りを拒んだり、拘わりたくない拒絶したりする人がいると聞いた。少子高齢化が急速に進み、社会の仕組みや価値観・家族観など、急激な変化に追いつかないところからくる混乱が、様々な社会問題を起しているのではないかと。今こそ家族とはなにか、どうあるべきか、改めて確認し合う必要があるのではないだろうか。「仏教を学ばせて仏教思想を学ばせようとするが、どんなに仏教の思想を学んでも、語るだけである。文明が進むと、心の豊かさを求めて仏教思想を学ばせようとするが、どんなに仏教の思想を学んでも、語るだけで実行がともなわれないなければ絵に描いた餅でしかない。歩むとは、足を動かして進むことだ。進むためには、まず第一歩を踏みださなくてはならない。理論が先ではない。歩み出すことが先だ。歩み出すことに老いも若いも早いも遅いもないと思う。



境内には、毎年沢山の花が咲きます。六十一号より裏面に宝清寺の草花を紹介しています。



身延山の八幡大菩薩座像は、上の山八幡社に祀られています。日蓮聖人は、天照大神・八幡大菩薩を法華経の守護の諸天神の代表として重視され、ほとんどの尊茶羅に勧請されています。身延山の八幡大菩薩も、開基檀越であった南部家の鎮守として祀られていたものと伝えられています。現在の八幡社は身延二十八世日鏡上人の代に本堂裏手の上の山に移転され、社殿は山梨県指定文化財となっています。

現在、八幡大菩薩の尊像は久遠寺の宝蔵に保管されており、身延山総門内の全町民が氏子として信仰しているようで、毎年九月十四日から十五日の大祭には、門内に上町・仲町・元町・橋町・清住町が輪番で当番となり、交代で祭りを執り行う風習が現在も続いているそうです。八幡大菩薩完成後の安置場所は本堂のご本尊が祀られている須弥壇の右側に独立した祭壇があり、その場所にお祀りし、八幡様のお像の中に、八幡様座像の寄附者及び八幡大菩薩の幟旗の奉納者の名前を記した書面を収め、永代に亘って奉納者の庇護が続くよう祈願して参りたいと考えています。改めて本堂の内陣を見ると、内陣には相当数の仏具があります。打敷・天蓋・前机・経机・太鼓・木鉦・如鉢等々、「為○院○日○信士第○回忌の砌」と書いてあるものが殆どなのに改めて気づきました。私が住職になってより、建築などお寺の事情によるご寄附の依頼をしない方針で寺院運営をして参りましたが、今回の森川英子様の「良い機会を与えて頂き感謝しています。」とお言葉と「浄行様のお賽銭箱が古いので新しいものにして頂きたい。」とお申し出に、住職として、皆様のお気持ちを集約することの必要性和大切さを痛感致しました。そこで、この度、

- 1 八幡堂の前に備え付けるお賽銭箱
2 浄行菩薩祈願者の絵馬掛け
3 浄行菩薩縁起看板
4 八幡大菩薩の幟旗

宝清寺年中行事

三月 彼岸中日・塔婆供養
 四月 八日・花祭供養
 七月 十七日・孟蘭盆会供養
 七月 十七日・お施餓鬼法要
 九月 彼岸中日・塔婆供養
 十月 十二日・お会式法要

日蓮宗の聖日

二月 十五日・釈尊涅槃会
 四月 十六日・釈尊降誕会
 五月 十八日・伊豆法難会
 五月 二十日・立教開宗会
 七月 十七日・松葉谷法難会
 八月 十七日・本尊御入山会
 九月 十七日・池上御入山会
 九月 十八日・宗祖御入山会
 十一月 十一日・小松原法難会

御祈願・御供養

交商虫方除星安開
 通繁盛安祈
 厄位祈
 運産
 守守祭願除封願全

宝清寺では、花祭り(灌仏会)、お盆(孟蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。
 このほかにも諸祈願や自動車のお願いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

去る、七月十七日午前十一時より、孟蘭盆会御施餓鬼法要が盛大に行われました。
 今年の法要には、盛夏にもかかわらず、多くの檀家様が焼香に参列頂きました。
 宝清寺のお盆法要では、檀家様の御先祖様と新盆にあたる方々の回向を行い、また、新盆にあたる仏様の白木位牌の閉眼回向(御炊き上げ回向)を住職導師のもとで行われました。

また、法要後は住職の法話がありまして、本年の法話は、浄行堂と八幡堂を荘厳にするために、それに関連したお話しをしました。
 また、八幡堂の周りに、八幡旗の御奉納を募集したところ、多くの方が奉納されました。



奉納者名(申込順)

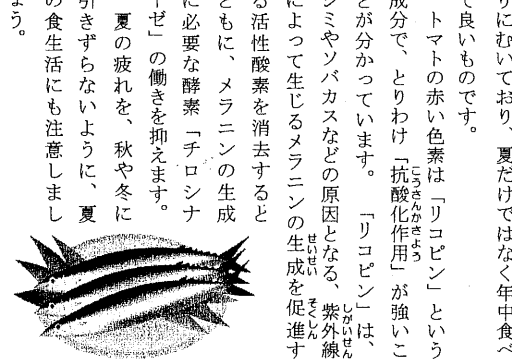
- ・森川英子様
- ・望月良章様
- ・桐 順子様
- ・西川公博様
- ・田中妙広様
- ・大村真人様
- ・矢崎慎次様
- ・沼確太郎様
- ・関 昭子様
- ・古屋壽美様
- ・早佐行弘様
- ・伊藤政雄様
- ・小林初朗様

以上の方が現在、八幡堂の周辺に八幡旗を建立されております。まだ、募集中です。御奉納をご希望の方はお申し出ください。

健康の秘訣

今回は「夏バテ」についてお話しを致します。今夏は「夏バテ」がだるくて食欲がない。このような症状は、暑さでストレスを受けた体に食生活の乱れや、エアコンなどで体を冷やすことで起きてくるものです。
 体力増進にはビタミンB1を含んだ食品、豚肉やうなぎがおすすです。
 インドは猛暑の土地として有名ですが、インド人のほとんどが言っているほどカレーを食事としていません。このカレーにはコショウやターメリックなどのスパイスが入り、脂肪の分解作用、消化促進、食欲増進、整腸、健胃作用があるそうです。
 また、梅干やトマトジュースなども疲れた身体には良く、梅干に含まれるクエン酸は、疲労物質である乳酸を取り除く作用のほか、糖質を脂肪酸へと変化させないという働きがあります。このような作用があるので、疲れにくく太りにくい体質作りにも役に立ち、夏だけではなく年中食べたい良いものです。

トマトの赤い色素は「リコピン」という成分で、とりわけ「抗酸化作用」が強いことが分かっています。「リコピン」は、シミやソバカスなどの原因となる、紫外線によって生じるメラニンの生成を促進する活性酸素を消去するとともに、メラニンの生成に必要な酵素「チロシナーゼ」の働きを抑えます。
 夏の疲れを、秋や冬に引きずらないように、夏の食生活にも注意しましょう。



仏様の話し

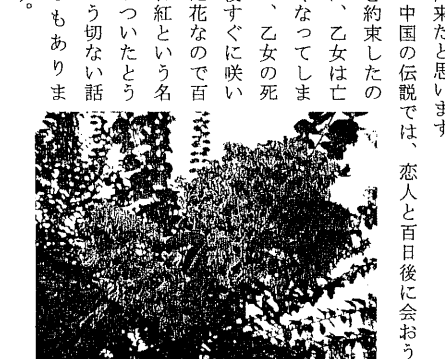
「夕暮れ時の帰り道、野辺の地蔵に華一輪、小さな手と手が合わさって、螢が足下照らして」
 宝清寺がある、あきる野を散歩してみると、いたるところに道祖神、馬頭観音、地藏菩薩などの石像に出会う。東京も中心地に近づけば近づくほどこのような景色が薄らいでいくようだ。
 私が子供のころには、六体の地蔵様が、赤い頭巾と前掛けをして、道行く子供たちを見つめている風景を思い出す。
 しかし、子供の頃はなぜ赤い頭巾と前掛けなのだろうかと思議にももっていた。地蔵さまは衆生を救済するように仏様と約束をし、とくに弱者である子供を救おうとされているのだ。親よりも先に逝ってしまった幼い子供は、親を悲しませ、親孝行の功德も積まなかつたために、三途の川を渡ることができず、賽の河原で石を積んで悲しんでいると言われている。親の方も、幼い子供が先に逝ってしまったので、嘆き悲しみ、子供にしてあげられなかったことを、石の地蔵さまに代わりに頭巾と前掛けをして、子供の救済を地蔵さまにお願いしているのだらう。

六体の地蔵さまには意味があり、六道を輪廻して苦しんでいる衆生を救済するのが地蔵菩薩の使命だからである。六道とは、地獄界、餓鬼界、畜生界、修羅界、人界、天界のことで、この六界を奔走し救済してください。

また、高浜虚子(たかはまきよし)は、「炎天の 地上花あり 百日紅」と詠んでいます。まさに今年のような盛夏(生花?)な時期にピッタリな花のよう。青い空と緑の葉と燃えるような赤い花が、暑い夏を和ませてくれるようです。

宝清寺の草花

サルズベリ(狼滑・百日紅)は水谷庵の正面に赤い花がつくものと、ピンク色の花がつくもの、ちばな会館の東側にあります。木肌がつるつるしていることから、サルズベリという名が付き、長い間、花を楽しむことができる事から百日紅という名が付いたのでしよう。とても面白い名称の由来だと思えます。
 中国の伝説では、恋人と百日後に会おうと約束したのに、乙女は亡くなってしまいい、乙女の死後すぐに咲いた花なので百日紅という名がついたという切ない話もありました。



発行・水谷山宝清寺
 住所・東京都あきる野市小川一〇一
 電話・042-558-2663
 FAX・042-558-2693
 インターネット・ホームページ
<http://www.ab.auone-net.jp/~houseiji/>
 メールアドレス
houseiji@ac.auone-net.jp